

平成30年 新春の所感

平成30年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

本県は、東日本大震災とそれに伴うこれまで経験したことのない東京電力福島原子力発電所の事故から、まもなく7年目を迎えようとしておりますが、現在においても、未だに5万人を超える人々が、様々な問題を抱えながら県内外において避難生活を続けておられる状況に置かれており、被災地の一日も早い復興・復旧とともに、避難生活を送られている方々が、少しでも早く平穏な生活を取り戻すことが出来るよう強く願うものであります。

さて、当協会は、「より高みを目指そう」という方針に基づき、公益社団法人に移行して3年が経過しました。公益法人は税制面で優遇されている反面、事業活動には様々な制約がありますが、この間、県など関係団体の提案や助言を頂きながら、公共の利益の維持・向上を第一とし、ビルメンテナンス業務の社会的な責務を果たすため、各種の研修会や講習会の開催、障がい者の方々の就労支援のための事業など様々な活動を行ってまいりました。

本年も、公益社団法人全国ビルメンテナンス協会と連携しながら、清掃作業従事者研修会や研修指導者講習会など、協会としてビルメンテナンス業務の品質を確保するための人材育成事業を行うとともに、特別支援学校へ協会の関係者がビルクリーニングの指導講師として出向き技術指導を行うことにより、障がい者や就労弱者等の支援活動を積極的に推進してまいります。

また、協会に設置されている青年部について、今後、協会の事業に積極的に参加していただき人材の新陳代謝を図るとともに、将来、協会を牽引していく幹部候補生の育成を図ってまいります。

最後になりますが、ビルメンテナンス業を取り巻く環境は、労働力の不足による人件費の高騰、入札価格の低迷など厳しい状況が続いておりますが、皆様にとりまして、この1年が良い年になりますよう祈念いたしまして、新年のあいさついたします。

平成30年1月1日

公益社団法人福島県ビルメンテナンス協会
会長 佐藤 日出一